

消 防 学 校 だ よ り

令和8年5月号

発行年月日 令和8年6月1日
発 行 宮 崎 県 消 防 学 校

初任科（機器取扱訓練）

5月1日（金）、「機器取扱訓練」を実施しました。消防活動の成否は、使用する機器の性能を最大限に引き出せるかにかかっています。現場には国産品から海外製まで多種多様な機材が導入されており、それぞれの特性や諸元を正確に把握することは、隊員の安全確保と迅速な救助活動の根幹です。本訓練では、各機器の構造的理解を深めるとともに、現場環境に応じた適切な運用方法を学びました。



初任科（健康と体力）

5月8日（金）、「心と体と勇気が育つ消防体育訓練」についてタフ・ジャパンの鎌田修広氏を講師に招き、特別講義を実施しました。消防活動において、強靱な肉体は基盤であり、それを動かすのは「折れない心」です。講義では、ストレスフルな現場で危機に対応するための心理的エネルギーの維持法や、自己肯定感の重要性を学びました。また、バディ訓練を通じて身体の柔軟性や合理的な動かし方を体感し、仲間と支え合うことの意義を深めました。

心身の強さを磨く学生たちの眼差しは、真の消防人へと成長するための確かな決意と自信に満ち溢れていました。

初任科（消防ポンプ）

5月18日（月）、消防ポンプの性能や諸元、および基礎となる水力学について学習しました。講義では実機を用いて車両や可搬消防ポンプの構造を詳しく確認し、理論と実態の両面から理解を深めました。

現場での確実な注水活動を支えるのは、こうした理論的裏付けに基づく正確な機器運用です。学生は真摯な姿勢で知識の習得に努めました。



消防団（消防団指揮幹部科 分団指揮課程）

5月19日（火）から2日間にわたり、分団指揮課程を実施しました。激甚化・多様化する現代の災害現場において、指揮官には従来の戦術に加え、ドローン等の最新鋭機器を駆使した迅速な情報収集能力が不可欠です。本課程では、高度な資器材を活用した効率的な災害防御戦術と、団員の安全管理を両立させる手法を徹底的に学びました。また、組織を統率するためのマネジメント能力の向上にも注力しました。次代の消防組織を牽引する分団長として、卓越した指揮能力と強固な使命感を備えるための、極めて実践的かつ密度の濃い訓練となりました。



初任科（長距離資機材搬送訓練）

5月21日（木）、消防学校から椿山森林公園、動物愛護センターを経て学校に戻る計36kmの長距離踏破訓練を実施しました。本訓練は大規模災害時における長期的な活動に耐える強靱な精神力と体力の醸成を目的としています。学生にとって初となる本格的な長距離訓練でしたが、極限の疲労の中でも互いに励まし合い、資機材を搬送しながら一丸となって任務を遂行しました。

過酷な道のりを通じて、個々の限界を超えるとともに、強固な結束力と「誰一人取り残さない」という消防士としての使命感を深く胸に刻む、極めて意義深い訓練となりました。



消防殉職者慰霊祭

5月29日（金）、宮崎県消防協会主催による消防殉職者慰霊祭が厳粛に執り行われました。ご遺族をはじめ、県知事や消防関係者が参列し、尊い命を捧げられた先人の御霊に深く哀悼の意を表しました。追悼の辞や献花を通じ、出席者一同は、殉職された方々の想いを継承することを改めて決意しました。初任科学生も同席し、現場における安全管理の徹底を再確認し、二度と尊い犠牲を出さないという重い誓いを胸に、日々の教育訓練に励んでくれることと思います。



6月の主な行事

○6月9日（火） ～ 11日（木） 消防操法審査員研修会

○6月15日（月） ～ 7月10日（金） 第37期救助科

宮崎県消防学校

電 話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shoboh-s@pref.miyazaki.lg.jp